オリエンタリズム 上・下

E・W・サイード著　今沢紀子訳　　平凡社ライブラリー1993年

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　報告　松本倫明

序説

1. この項で、筆者は「オリエンタリズム」という言葉に複数の意味合いを与えていることを言明している。また「オリエンタリズム」と「オリエント」の言葉の違いも明確にせねばならない。本項であげられた定義、説明を簡単に纏める。

|  |  |
| --- | --- |
| オリエンタリズム | オリエントの側面についての学問をする人物の行為  「東洋」「西洋」の間の存在論・認識論的思考様式  オリエントを支配するための西洋の様式 |
| オリエント | 広大、豊か、最古の植民地  ヨーロッパ人の心の奥底に現れる他者のイメージ  ヨーロッパ人が自らを対照なものとして形成する元 |

オリエンタリズムの支配と言う側面に関して、サイードは「言説[[1]](#footnote-1)」という概念を持ち出す。言説としての「オリエンタリズム」を検討することによって、西洋がオリエントを管理。生産した際の組織的規律を理解できる。オリエンタリズムは余りに権威をもち、その結果、人は誰もオリエントについて考える際、自由な思考や行動を阻害されてしまうに至った。

「オリエンタリズム」とは、人々が「オリエント」を問題とする時に、つい目を向けてしまう関心のネットワークの総体なのである。

西洋人(特に英仏)にとって、東洋はロマンやエキゾチックな世界を与える。故にオリエンタリズムを語ることは英仏の文化的事業を語ることにもなる。これは、東洋に関する様々なテクストを生み出した。以後、サイードは、東洋に対する歴史的概括を詳解する。

1. 人間は自分自身の歴史を作り出す。東洋、西洋も人間によって作られたものである。この二つの地理的実体は、相互に相手を反映し合っている。

ここで、サイードは三つの条件を提示する。第一に、オリエントは現実と符合しない概念、作られた想念であったと断定はできないということである。筆者が問題とするのは、オリエンタリズムと現実の一致度ではなく、それに内在する論理整合生及び東洋に関する観念である。

第二に。観念や文化を理解するには、それを編成する強制力も研究する必要がある。西洋と東洋の間にある関係、それは支配関係である。権力者たる西洋は東洋について語り、オリエントをオリエント的に仕立てることが可能であった。

第三に、以上より、オリエンタリズムとは虚偽や神話ではない。オリエンタリズムは理論・実戦であり、西洋人の意識の中で、オリエントについての知識を体系づけることになった。

1. 以上見たように、オリエンタリズムはそもそも歪曲しがちである。それについての分析が偏ったものにならない為には如何にすべきか。サイードは三つの現実の局面に言及する。

第一に純粋な知識と政治的な知識との違いを明確にすることである。筆者は人文科学者であり、政治とは離れているようである。しかし、人文科学における知識の生産は、その著者を囲む環境の影響を不可避に受ける。オリエンタリズムとは、自分たちの世界とは異なる世界を理解、支配、統合しようとさえする意志そのものである。

第二に方法論上の問題である。オリエンタリズムの分析には、著者と時代とを選択する問題が大きい。また、オリエンタリズムを論じるにあたり、ある権威を論じなければならない。その権威とは、西洋文化にある、一種の知的権威である。

第三に個人的な次元の動機である。中東で生まれ、西洋風の教育を受けた筆者にとって、混ざり気のない中東議論が為されないことは遺憾なことであった。

~第一章~　オリエンタリズムの領域

1. 東洋人を知る

サイードは、エジプトについて状況報告したバルフォアの言葉から論を展開する。バルフォアにとっての知識とは、文明を起源から概観する事であった。然しその調査や詮索から生まれる事実は、対象を固定させてしまう。その対象についての知識を得る事は、それを支配し、権威を及ぼす事である。我々が対象を知っているのは、それが、我々の知っているように、存在しているからである。

東洋人は、異質ではあるが、組織された世界にいた。しかし、その世界は西洋によって操作されたものである。オリエントの知識は、力を背景にしたものであり、それ故に創造可能なものであった。

ナポレオンの進軍以降、オリエントに関する知識体系は近代化された。この時以来、オリエンタリストにとっての関心は、詩文達の発見や体験を用語に定式化し、観念と現実を再組織する事へと変わる。

そして上記二つに加え、第三の形式としてのオリエンタリズムは、政治的ヴィジョンとして、西洋と東洋を、身内と他人を差別化する。

1. 言説とはフーコーの最も重要な用語の一つである。直感ではなく、論理、概念を経た秩序 [↑](#footnote-ref-1)